

新冠百話

第八十七話 「源義経と判官館」

（古老が聞いた伝説）

（要約文）

鎌倉時代の武将「源義経」は、歴史の上では奥州の衣川で亡くなったとされている。しかし、奥州から逃れて蝦夷地に渡ろうとし、嵐によって船が流されてたどり着いた場所が今の判官館ということだ。付き人であった藤原氏との働きで判官館の上に砦を構え、疲れを癒していた。そこに住むエゾの人達は、妙な者が来たものだと思議に思ったが、義経はこの者たちを敵とせず、味方につけることで判官館の上に立派な館を築いた。この話を聞いたとき、私は十六才であったが、本当にそうかなあと思いつつも感激しながらこの由来の話を聞いていた。現在、平取町にある義経神社の御祭神は、かつて判官館に据えられた神であり、明治の初めに移したということだ。

これも伝説として聞いているが、日本海側の浜益に頭が赤いツバメがいるという。義経は判官館から平取、さらに蒙古に渡ってジンギスカンになったという説

がある。義経を慕っていたメノコ（アイヌ民族の女性）は彼の後を追った。しかし、ついに会うことはなく、結核を患っていたために吐いた血がツバメの頭にかかり、今でもそのツバメが浜益の上空を飛んでいるということだ。

また、満州の奉天に行くと、民家の奥座敷には源義経の札がどの家庭にも掲げている。これは源義経がもっと広い大陸を求めて日本を飛び出し、蒙古のフビライになったということを信じて家の守り札にしているらしい。

義経にまつわる伝説は各地にあり、これが義経の最期だという証拠はないのだが、奥州の衣川で最期を迎えたと言っても、色々な伝説として各地に残っているのだ。



「夕暮れの判官館」

夕日に照らされた判官館の美しい姿を、はたして源義経も眺めていたのであろうか？…

戸籍の窓

1月21日～3月5日までの届出分(敬称略)

●いつまでもお幸せに

大滝 将仁 ♡ 林 亜里紗 節婦町
菊池 勇吾 ♡ 大竹 望 北星町
伊藤 晴彦 ♡ 田村 茉椰 北星町

●お誕生おめでとうございます

酒井 健杜 (けんと 伸輔) (ママ 千菜弥) 中央町
長谷川 晴 (はる 一美 妙音) 緑丘
成田 依乃莉 (いのり 崇将 もみじ) 東町
石山 織杜 (しきと 賢太 牧子) 東町

●おくやみ申し上げます

野田 政司 81歳 節婦町
佐々木 賢一 57歳 泉
泉山 勝美 84歳 北星町
青山 朝子 94歳 本町
藤澤 淳子 89歳 本町

～住宅用火災警報器の寿命は約10年～

- ボタンを押す、またはひもを引いて定期的に作動確認をしましょう。
- 電池切れや故障の音声、全く反応しない場合は交換しましょう。

住宅用火災警報器は維持・管理が大切！

消防署新冠支署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数	災害出動件数
2月	0件(1件)	22件(22件)	0件(1件)
8年1～2月	0件(1件)	62件(58件)	2件(2件)

交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期

区分	発生件数	死者	傷者
2月	0件(1件)	0人(0人)	0人(1人)
8年1～2月	0件(1件)	0人(0人)	0人(1人)

人のうごき

人口 4,928人 (前月比 △14人)
男 2,497人 (前月比 △8人)
女 2,431人 (前月比 △6人)
世帯 2,799世帯 (前月比 △9世帯)

(令和8年2月末現在)